

自昭和十九年十月一日  
至昭和十九年十月三十一日

# 陣中日誌

22565

獨立混成第十五聯隊聯隊砲中隊

十月一日(日)

目録

渡入地

一、〇八〇〇作業開始二二五〇作業終了 伊江島飛行場建設作業  
終了ノ

二、一五〇〇陸軍一等兵糧田社務主任官勝次ノ疑三付山口衛生上等兵

附添ヒ元護町患者陸軍社三入隊セシム

三、一五二〇獨混二五〇命令第七十二號 全文省略

四、一七〇〇伊江島飛行場建設作業終了ノ為 中隊長 陸軍中尉 杉浦

隆孝以下四十五名 伊江島在營 一九〇〇渡入地在營 (特別國民學校)

ニ歸還ス 自一九三〇ノ間兵器被服身體ノ手入ノ實施セシム

移作命令  
第三號

五、中隊命令

陸軍二等兵 丸山 俊 雄

全 西島 隆 一

命令 陸軍一等兵 (十月一日付)

六、本日の勤務日記者ノシテ服裝セシム

廻番士官 陸軍曹長 山田 次郎

七〇八〇〇 獨混回回旅作命 第四十八號 方針 訂定

獨立混成第四旅團命令

一 軍人新ニ戦備ノ度ヲ規定セラル

二 旅團中備計四第三新旅ノ別紙ニ通り改訂ス

三 別命ナキ際各部隊戰備ノ度ハ丁據戰備ノ規定スベシ

旅團長 鈴木 少將

下達法 印刷上ノ信

報ニ送覽 以ヨリ印刷 以ヨリ印刷 陸軍 海軍 船舶三大隊

配布先 隷下指揮下一級

独混回回旅作命 第四十八號 指針

(1) 甲 戰 戰 備

敵有力部隊ノ上陸(著陸)攻撃ニ際スル場合ニシテ 全部隊戰

闘配備ニ就キ應ニ戰闘開始ニ待テ準備ヲ整フルモ

ノトス

(10) 乙 號 戰 備

敵上陸(著陸)攻撃ノ算少キモ空襲又ハ砲撃ヲ受クル

虞ニル場合ニシテ各部隊ハ對空(電探)並ニ海上警戒ヲ嚴ニシ

所守ニ應ジ監視哨ヲ増カスルト共ニ水際戦闘準備ヲ整

ヘ對空射撃ニ任スル部隊ハ全隊戦闘配備ニ就キ一爾余

ノ部隊ハ警戒連絡ノ虞置ニ遺憾ナキヲ期シ砲撃戰ヲ

損害ヲ被ラズル如ク掩蔽ス

空襲警戒發令セラレタル時ハ別命ナク本戰備ニ移

ルモノトス

(11) 丙 號 戰 備

敵機動部隊近接ノ徴アリ又ハ敵飛行機潜水艦偵察

ノ虞ニ等警戒ヲ強化スルノ旨ニル場合ニシテ各部隊ハ

(電探)並ニ海上警戒ヲ嚴ニスルト共ニ對空射撃ニ任ス

ル部隊ハ一部ヲ以テ戦闘配備 主力ヲ以テ警戒配備

(南村部隊ニ在リテハ警戒姿勢トス)ニ就キ爾余ノ部隊ハ迅速ニ掩蔽下待避シ得ルノ準備ヲ整ヘ待ニ我リ配備兵力等ヲ目撃露セサル知ラ留意スルモノトス  
 警戒警戒報發冷トラレタル時ハ別命ヲ本戦備ニ移ルモノトス

四下抗戦準備

我ノ哨戒圍及電波警戒圍内ニ敵ヲ認メサル場合ニシテ各部隊ハユトリテ對空(雷探)及海上監視哨ニヨリ警戒ヲ行ヒ爾他ハ教育訓練築城交通作業其他ノ勤務ニ従事ス  
 但シ常ニ敵ノ奇襲攻撃等ニ對應シ得ル如ク所要ノ準備ニ遺憾ヲキラ期ス

陸軍部  
 陸軍部入

十月廿四日  
 日曜  
 渡入地  
 一 一〇、〇〇陸軍兵長廿秋原嘉清以下十七名(新花分屯九名兼次分屯八名)中管出發天々作業分屯地へ歸還セシム今明  
 日休養セシム

二 午前中兵器被服及推行器具ノ手入ヲ實施セシム午後ハ休養セシム  
 三 一五、三〇獨混一五日命第七十三號 全文省略

十月廿五日  
 日曜  
 渡入地  
 一 本日中午前中環境ノ整理ヲ實施セシム午後八時半ヲ休養セシム

十月廿六日  
 月曜  
 渡入地  
 一 一五、三〇獨混一五日命要旨方配通  
 一、二、三、四 全文省略

五 聯隊砲中隊陸軍二華兵 高澤 乙市  
 右部隊本部兵器奉員勤務ヲ命ス  
 三 一五、三〇會報

- 一 明日日軍人ニ賜リタル勅諭奉讀式ヲ執行ス
- 二 八時管度ニ聯隊本部ヲ最右翼トシ聯隊砲連射砲工兵各中隊順ニ四列側面從隊ニ集合スベシ
- 三 聯隊本部ノ位置ハ管庭中央旗竿ノ前トス
- 四 部隊指揮官ハ岡澤大尉トス
- 五 單據ノ軍裝トス (但シ防暑衣袴ノ着用ハ許サズ)
- 六 女子臨時傭人ハ部隊ノ最左翼トシ服裝ハ防空服裝トス
- 七 式次第
- 一 部隊指揮官ニ敬禮
- 二 部隊長臨場敬禮
- 三 勅諭奉讀
- 四 部隊長訓示
- 五 部隊長退場敬禮
- 六 部隊指揮官ニ敬禮

ト解散

- 一 在記地區ニ屬スル偽似症發生ノ連絡アリタリ
- 二 本部町宇石川三二五ノ主傭子長女友寄恵子十四歳依而之ヲ防疫ニ萬全ヲ期シ傳染病豫防事項ニ注意スベシ
- 三 生水・生肉ノ飲食嚴禁
- 四 石川地區ニ立入嚴禁
- 五 民家ニ立寄リハ更ニ嚴重ニ注意
- 六 各隊ハ燒ノ撲滅ヲ嚴重ニ注意
- 七 石川地區ヨリ當部隊ニ勤務スル臨時傭人ハ直ニ健康診斷ヲ受クルベシ
- 八 一六〇〇糧混ニ五作命ヲ起シ通リ
- 九 南西方面ニ於ケル空海ヨリスル敵ノ行動速次活発化シテ了、旅團ハ潮底鎧地ニ入港スル有カレバ我船團ノ爲メニ

和浪五作命  
第五〇號

十月四日(水)  
雨後晴

四師團より配属せられたル高射砲及機關砲各三中队ヲ濱崎附近ニ配置シ入港船團ノ對空掩護ニ任スルト共ニ砲場ヲ斷行ス

北地區隊ハ一部ノ兵力ヲ以テ渡久地ニ於ケル渡久地兵站支部ノ揚荷作業ニ協力セントス

各隊ハ上記人員ヲ渡久地揚陸場ニ差出し揚荷作業ニ協力スベシ

六一記

聯隊本部 一五名 通信班 二〇名

聯隊砲中队 一五名 逆射砲中队 二〇名

揚陸作業實施ニ関シテハ別命ス

一、昨三日會報ニ依ル軍人ニ賜リタル勅諭奉讀式ハ雨天ノ爲メ取止メ各隊毎ニ之ヲ執行中隊ハ〇九〇〇ヨリ勅諭奉讀式ヲ

渡久地

執行ス

〇九〇四〇ヨリ精神訓話(中隊訓)其ニ後烈ル敢闘精神ニ訴ヘテ之ヲ實施ス

二、一〇〇〇在本部國民學校中隊員ヲシテ體重測定ヲ受ケシム

三、一〇〇〇聯隊砲陣地ヲ新ニ構築スベク因當ノ大倉原ハ陣地偵察ノ爲メ中營出發、一六〇〇歸隊ス

陸軍軍曹 小尾 光雄  
全 小野 清美

陸軍伍長 田中 豊

四、一〇〇三〇中隊令之用ニ於テ町田軍醫中尉ノ衛生講話案

宛テ全員聴講ス

五、一五三〇糧食一五日命第七十五號全文省用各

移作命  
第八號

六、中隊命令

一 第一班 (華次)

陸軍上等兵 大曾根 正雄

全 藤井 義治

陸軍一等兵 長島 五郎

第二班 (新花)

陸軍軍曹 金安 久吉

陸軍兵長 長谷川 義雄

全 萩原 嘉門

陸軍上等兵 徳田 耕三

陸軍一等兵 関根 武吉

全 角田 光貞

全 丸山 俊雄

右各々ノ所属作業班ニ於テ陣地構築中ニ廣明五日  
夕食時迄ニ中隊本部ニ歸隊スベシ

二 作業隊長 陸軍少尉 枝原 庸三

觀測室傳令 陸軍上等兵 高橋 四郎

第一作業班

班長 陸軍軍曹 福島 勇作

陸軍兵長 加藤 勝雄

全 藤波 勝次

陸軍上等兵 久保田 中太郎

全 重城 安藏

全 落合 次雄

全 田中 勝美

陸軍一等兵 加藤 勝彌

全 八木 重和

第二作業班

班長 陸軍任長 田中 豊

右各々ノ所属作業班ニ於テ陣地構築中ニ廣明五日  
夕食時迄ニ中隊本部ニ歸隊スベシ

即  
知  
入

陸軍兵長 茨木 卓司

陸軍上等兵 依田 貞治

全 和田 義勝

全 米田 武次郎

全 某井 正次

全 杉山 文天

陸軍二等兵 保坂 光治

全 山田 武雄

木工班

班長 陸軍軍曹 小尾 光雄

陸軍兵長 久保田 直親

陸軍上等兵 金久保 金二

全 野口 四郎

陸軍上等兵 豊田 進

伐採班

班長 陸軍軍曹 小野 清美

陸軍上等兵 中村 一郎

陸軍一等兵 田島 晴一

全 長田 正市

全 永井 政雄

炊 事 陸軍上等兵 秋山 忠男

陸軍一等兵 川形 吉雄

現品受領 陸軍上等兵 石渡 正一

三十三名

四谷長物買以集  
全銃火押担任 陸軍軍曹 小尾 光雄

裁管物品 全 小野 清美

右得混一五作命第四十八號第八項ニ基キ明五日本皇原

ニ至リ陣地構築スベシ



参考資料  
本報社文

十月五日(木)

晴

渡久地

依り旧二班所屬班員人直降現地ニ赴クベシ細部  
ニ関シテハ口達指示ス(別紙附圖其一ニ参照)

一、〇八・三〇部隊長ニ隨行シ内室、大堂原方面ニ陣地偵  
察ニ赴キ、一六・三〇歸隊ス

二、〇九・二〇陸軍少尉牧原、席三以下三十三名獨混二五作命  
第四十八號ニ基キ聯隊砲陣地構築ニ爲シ營長以下五  
大堂原方面三十二分隊セシム

三、一五・〇〇謝花分隊中人全中軍曹以下七名中隊偵歸ス

四、一五・三〇獨混二五日命第七十六號 全文省略

五、一五・三〇人會報 全文省略

六、一七・〇〇前次分隊中ノ大曾根上筆兵以下三名中隊復歸ス

一、〇八・〇〇金中軍曹<sup>外</sup>一名地方人徵用協力ニ爲シ岡澤大村  
ノ指示ヲ受ケテシテ邊名地健堅部ヲ訪ヘ赴カシム

参考資料  
本報社文

十月六日(金)

晴風強陣

渡久地

二、一五・三〇獨混二五日命第七十七號 全文省略

三、陣地構築ニ爲シ派遣シテ作業隊長陸軍少尉牧原、席三以  
下三十三名本日より作業開始セシム

一、〇八・〇〇全中軍曹外一名ノ明日同様邊名地健堅部ヲ訪  
ニ赴カシム

二、〇九・〇〇内室、大堂原部隊砲陣地偵察ニ赴キ、一六・〇〇  
歸隊ス

三、自〇九・二〇ノ間聯隊本部ニ於ケル駐屯地會報ニ陸軍曹長  
至一〇・三〇ノ山田次郎ヲ代理トシテ出席セシム

四、一五・三〇獨混日命第七十八號 全文省略

五、一五・三〇人會報

明日大詔奉戴日ニ付詔書奉讀式ヲ舉行ス  
依而左ノ通り心得ハシ

十月七日(土)

晴日中風

渡久地

歸隊ス

自〇九・二〇ノ間聯隊本部ニ於ケル駐屯地會報ニ陸軍曹長  
至一〇・三〇ノ山田次郎ヲ代理トシテ出席セシム

四、一五・三〇獨混日命第七十八號 全文省略

五、一五・三〇人會報

明日大詔奉戴日ニ付詔書奉讀式ヲ舉行ス  
依而左ノ通り心得ハシ

八 集合 八時

又 集合場所 營口度

聯隊本部より自右翼より聯隊砲連射砲工兵各中隊の順序より東面より列側面隊隊を集合スベシ

聯隊本部の位置は正面旗竿より前トス

〇 服装 単独ノ軍装トス但シ防暑衣袴着用ノ許可セズ

4. 臨時傭人ハ部隊員最左翼トシ 服装ハ防空服トス

5 式次第

1 部隊長臨場敬禮

2 詔書奉讀

3 部隊長訓示

4 部隊長退場敬禮

5 解散

大 本營分屯作業隊陣地構築作業進行セシム

作業開始ハ七時 作業終了ハ八時

七 本週ノ週首勤務者トシテ左部勤務セシム

陸軍 軍曹 岡田 好雄

有分山

一 八時 啓口度ニ於テ旨對テ大詔奉讀式舉行セシ 詔書

時

奉讀後 部隊長より對テノ先導ニ對テ訓示ヲ受ケ

濱久地

二 自九時ノ間兵營被服ノ手入ヲ行ハシム

三 一二時 柴田中尉指揮ノ下ニ對テ空襲監視トシテ中隊ヨリガ秋

原其長以下五名ヲ差出シ 報告セシム 一九時 撤收帰隊ス

四 一二時 大本營分屯中隊作業隊ノ報告 奉讀 並ニ精神

訓詔實施ノ爲メ大重ニ起シ 一文ニシテ帰隊ス

五 一二時 宿舎ニテ作業令ヲ左記ニ通シ

ハ マリヤ方面 敵機動部隊來襲ハ公算アリ

陸軍五空  
第五一隊

至要商詳  
至要商詳

十月八日一〇、〇〇 西南諸島全地區ニ對シ 丙號銃備下令  
セズル

ニ 地區隊ハ 對空射撃海上警戒ヲ嚴ニスルト共ニ 對空銃備ヲ  
強化セトス

ニ 各隊ハ 對空海上警戒ヲ嚴ニシ 一部ノ 對空射撃部隊  
ノ 射撃配置ニ 就カシメ 主力ハ 迅速ニ 掩蔽下ニ 退避  
シ 得ルノ 準備ヲナスベシ

四 各隊ハ 迅速ニ 配備状況ニ 注意シ 廣播ヲ 電話ニ 依リ  
報告スベシ

六 一五、三〇 獲混一五日令第七九號 全文省略

七 一五、三〇 令會 報

一 兩令者 各隊ノ 間 毎週日曜日一ニ、〇〇 以降 各隊 其ノ 半数以下  
ヲ 休養或ハ 外出セシムルヲ 得 (但シ 第一大隊ハ 水曜日)

八 大倉作業隊 其 容被服ニ 手入 環境ノ 整理ヲ 行ハシム

十月九日 (A)

晴

渡入地

一 〇八、〇〇 大倉原上等兵以下一〇名 對空監視トシテ 石井少尉  
ノ 指揮下ニ 入ラシム 一九、〇〇 歸隊ス

二 〇八、〇〇 村原少尉長 小倉上等兵以下一〇名 大倉原分屯中隊作業  
隊ニ 觀測器材ヲ 携行セシム 一三、〇〇 歸隊ス

三 〇九、〇〇 獨混五五作令 甲 右記ニ 遵リ

一 地區隊ハ 一部ノ 幹部ヲ 隊員ヲ 適シ 武器隊ニ 派遣シ 其  
ノ 陣地構築狀況ヲ 監視セシム 然ル 陣地構築ニ 注意セトス

二 左記人員ハ 第三次陣地構築視察員トシ 十月十一日一テ、〇〇  
迄ニ 地區隊本部ニ 集合スベシ

服装ハ 單履ノ 軍裝トシ 眼鏡ヲ 携行スベシ

左記

聯隊本部 岡澤大尉 杉浦中尉

以下 省略

至要商詳

三四五 者略

四二五三〇 艦隊三日命第八〇號 全文者略

五 大空分屯作業隊 作業續行セシム

十月十日(火)

晴

渡久地

一〇、一〇 南西  
空襲

一、〇六、四〇水船島上空ト見テキ方同高度約三、〇〇米ニ敵機戦  
 爆連合ヲ約四〇機來襲之ヲ邀撃スルニ成リ高射砲哨  
 哨類ヲ一〇六五〇中隊ニ非常ニ對復スル處置トシテ直ニ  
 火砲二門非常持出三箇ヲ管及西北側ニ移レ之ガ監視トシテ  
 中隊武庫上華兵外名ヲ發進セシテ彈藥八第彈藥庫東方ニ〇〇米  
 大空ニ逼ル道路崖下ニ移ス、此時既ニ敵ニ機管及背後連名  
 知部海上空一五、〇〇米ニ在リ急降下爆撃ヲ以テ船倉鋪地ニ  
 致シタル艦船ニ迫リ之ヲ爆撃シテ、一七三〇中隊ハ對空  
 射撃ヲ手トシテ機庫上華兵以下名ヲ差出し、石平少尉ノ指示  
 ヲ受ケテ、其ノ外ノ全員ハ管及西北側山腹ニ時待待ス、

一七三〇大空分屯作業隊ヨリ異常ナキ報告ヲ受ケ  
 〇八、〇〇騎馬軍令大管根ト華夫ヲシテ大空分屯作業隊  
 長牧原少尉ノ下ニ連絡ニ赴カシム

〇八、一〇再ニ敵機約三〇機地上空ニ來襲機燒夷彈落下  
 内ニ機低空飛來シ機銃掃射ノ加ヘ來ル、渡久地ハ敵所  
 ヲリ發射シ、〇八、三〇迷ニ第一彈藥庫ニ火燒轟然タル  
 音響ヲ以テ連續爆撃發シ黒煙猛々トシテ空ヲ蔽フ、火氣力  
 本部國民學校ニ迫リ炎燒ノ度アルヲ以テ火砲非常持出被服  
 等ヲ彈藥ト同様大空ニ逼ル道路崖下一搬送セシメ一部ヲ  
 以テ破壊消防係村上少尉ニ協力セシム  
 〇九、四〇小屋軍管以下十二名大空ヨリ來核ス、兵器等自  
 拉摩本中村ノ指揮ノ下、第一彈藥庫ヨリ部隊彈藥ヲ仰  
 野波部港入口ニ搬出スヘク協力セシム  
 一〇、二五福島軍中大空ヲ連絡ノ為到着ス

七五八

二五八

一、三、三ノ漸ク敵機波状來艦隊終了ス  
 此ノ間、中隊隊員掃射兵器不啓造ハ衛兵司令ノ命受テ第  
 二彈藥庫ヲ望見シ得ルハ固所ニ於テハハ監視ニ任ジアリ、  
 〇八、五 第三彈藥庫方向ニハ、改メテ發見ハ大事トシテ連射シ  
 第ニ彈藥庫ニ至リ、彈藥機出勢ム〇八ニ〇同彈藥庫炎煙始  
 ルニ至リ西北側〇米、竹筒所ニ監視シ、ハ時爆破開始セテ止テ退避ス  
 中隊人員兵器其他全部異狀ナシ  
 但シ對空射撃手手トシテ藤井上等兵以下六名ノ使用セリ  
 射撃彈數 小銃實數 九〇發  
 一六、三〇 岡田軍曹ヲミテ二十日分、糧秣ヲ食給セシム  
 二〇、三〇 部隊長代理岡澤大尉ヨリ大室ニ赴クト要旨  
 命令ヲ受テ領ス  
 二一、〇 岡田軍曹、長谷川兵長大副上等兵三名ヲ本部國民  
 學校ニ移置シ、由隊主力ハ大室ニ向テ出發 同日夜ヲ徹シテ

第五三號

彈藥搬送ノ實施セシメ 分隊各組ス  
 二、〇七、三〇 彈藥二五作命令 要旨左記ノ通り  
 一、〇七、一〇 本砲隊上空ニ侵入セル敵機對艦隊連合約四〇機ハ目下  
 地區隊上空ヲ跳梁中ニシテ 瀬衣鎗地及運天港ニ飛泊中  
 ノ艦船ニハ相當ノ損害アルモノカシ  
 二、地區隊ハ隊ノ準備見對空射撃手部隊ヲ以テ見敵必墜ヲ  
 期スル共ニ彈藥糧秣ノ分散積ニ遺憾ナキヲ期シ、ハ  
 爆藥ニヨル損害ヲ極度ニ限ラントス  
 三、各獨立中隊ハ連ニ部隊本部ニ復歸シ、ハ聯隊砲及連射砲  
 ハ砲隊行、ハ彈藥ヲ連ニ聯隊新庫地附近ニ待避セシムハシ、  
 工兵中隊ハ一部ヲ以テ聯隊本部ニ積留、ハ彈藥搬出ニ主力  
 ヲ以テ部落ノ破壞消防ヲ準備スハシ  
 四、五、六、七 省略  
 三二、一〇 彈藥二五作命令 要旨左記ノ通り

第五四號

一 敵情ハ既ニ示ル如ク旅團ノ情報ニ依ルニ敵ノ空襲衣班  
 二 一部上陸ノ公算大ニモアリ  
 三 地區隊ハ一部連絡要員ヲ現本部位置ニ残置シ主力  
 ハ新陣地配備ニツキ情況ノ推移ニ即應コトス  
 三 省 略  
 四 本部及獨立中隊ハ左記人員ヲ發遣シ志村大尉指揮  
 ニ入ラシムル  
 左 上 記  
 本部 書記 一 傳令 一  
 通信班 下士官 二 兵 八  
 電報班 下士官 一 兵 二  
 獨立中隊 各々 兵 三  
 醫務室 下士官 二  
 炊事 下士官 一 兵 二

五 省略

六 各獨立中隊ハ夜ヲ徹シ現任務ヲ續行スル

七 八 省略

四 一五、三〇獨立五五日命第八二號 全文省略

五 本日ハ作業ヲ中止シメ大空分屯作業隊全員ヲ伊野波

部移入リテ大空原ハ彈藥ヲ搬送セシム

六 本空襲ニ依リ大空分屯中隊作業隊人員器材異常ナシ

十月十一日(水)

晴

大空原

一、ノ前日夜ヲ徹シ彈藥及中隊糧秣シ他資材ヲ大空ニ  
 搬送セシム 一六、〇〇搬送終了ス

二、一五、三〇本日ノ命令 會報ナシ

三、中隊主力大空原ニ轉進ニ付 指合トシテ新三四九計七戸

ニ分宿セシム (別紙附圖其三參照)

十月十一日

原中隊

十月十二日(水)	一、自〇九、〇〇ノ間伐採班ハ木材伐採、其他ハ彈藥資材ヲ内堂、聯隊砲彈庫地ニ搬送セシム
晴	二、一三、〇〇ノ中隊轉進方、狀況實視ニ爲、渡久地ヨリ大皇
大皇原	ニ赴キ、一六、〇〇渡久地ニ歸隊爲、大皇出發ス
	三、一五、三〇本日の命令、入會報ナシ
十月十三日(金)	一、〇七、〇〇作業開始、一八、〇〇作業終了
日曇	二、一五、三〇獨混五日命第八十三號全文省略
大皇原	
十月十四日(土)	一、〇七、〇〇作業開始
日曇	二、一四、〇〇獨混五作命令要旨元記ノ通り
渡久地砲頭	ハ皇國ハ今明日三日ヨリ台灣附近ニ於テ航空決戦ノ企圖ス

獨混五作命  
第五五號

軍ハ管内ニハ航空要隘ヲ確保シ、右作戰遂行ニ協力ス
旅團ハ伊江島ニ兵力ヲ増強シ、特ニ飛行場ノ補修ニ遺憾ナクシム
本部地區隊ハ一部ノ重火器ヲ渡久地砲頭附近ニ位置セシメ、輸送間ノ掩護ニ任ス
ニ北地區隊(欠第三大隊及速射砲中隊)ハ伊江島地區隊及同地飛行場大隊ヲ併セ指揮シ、新ニ伊江島地區隊トナリ、晝夜ヲ問ハズ、飛行隊ニ協力スルニ特ニ飛行場ノ補修ニ此ノ遺憾ナクシメシトス
三、第一大隊及聯隊砲中隊(欠小隊)工兵中隊ハ直ニ現作業ヲ中止シ、各々發着場附近ニ集結、本十四日一七、〇〇迄ニ渡久地砲頭ニ前進シ、人員及資材積込區、廢ニ依リ伊江島ニ前進スベシ
四、五、六、七、八、九、十、十一、省略

空軍

高野聯隊  
電中ノ入

本作命  
第九號

三、四、三〇大胡上等兵聯隊命令傳達爲大宮原中隊本部  
二到着ス

四、一五〇〇中隊命令、下令ス

中隊命令元記ノ通り

一、軍八今明日三宜、台湾附近ニ於テ航空決戦ヲ企圖ス

二、聯隊主力(二大隊聯隊砲中隊工兵中隊)ハ伊江島ニ轉進能  
行聯隊ニ協力ス

三、中隊ハ伊江島ニ轉進シ命令ロラル。按原少尉ハ在大宮原  
却隊ヲ指揮シ一七〇〇渡久地埠頭ニ到ルベシ

四、小尾軍曹ハ殘留員トナリ兵十四名ヲ指揮シ中隊殘留員  
器被服糧秣具他一切ノ材料ヲ追送ニ任ズベシ

五、金安軍曹以下五名ハ先ズ發トナリ一五〇〇渡久地埠頭ニ  
至リ伊江島ニ先行シ設營並ニ連絡ニ任ズベシ

六、中隊長ハ一七〇〇渡久地埠頭ニ在リ

本作命  
第五大號

七、細部ハ口達指示ス

五、一六〇〇金安軍曹以下五名伊江島ハ先ズ發セシム

六、一七三〇中隊主力伊江島ニ向テ大宮出發。尙小尾軍曹  
外十四名彈藥糧秣梱官類追送ニ爲テ置置後發トナシム

七、一八〇〇糧混作命令要旨元記ノ通り

一、地區隊ハ一部ヲ以テ飛行場附近。主力ハ伊江島村邊自衛隊又  
六省略

二、兩余隊ハ伊江島村落内ニ分散襲撃スベシ

四省略

五、聯隊砲中隊ハ伊江嶺山四麓及學校高地附近ニ陣地ヲ  
占領シ對空射撃ヲ準備スベシ

六省略

七、諸隊ハ兵器彈藥糧秣資材等一切ヲ洞窟内ニ分散格  
納シ砲隊射撃ニ對テ是ヲ掩護スル絶無トシム如ク上テ處置



一、ス、レ

八、空襲警報ハサイレンニ依リ傳達スルト共ニ空襲警報  
司令間ハ亦旗ヲ學校展望台上ニ掲ゲ

九、省略

八、一九〇〇渡久地埠頭に着、同夜附近ノ民家一戸ヲ宿泊スル。

九、本週ノ週番勤務者トシテ左記勤務セシム

週番士官 陸軍曹長 山田 次郎



十月十番(田) 一、一〇〇〇時部隊大發ニ乗船、伊江島ニ向テ渡久地

埠頭

出發

伊江島 二、一〇〇〇伊江島到着、直ニ火砲、彈藥箱、糧秣、揚陸、伊江島

國民學校附近ニ搬送セシメ、一人〇〇搬送終了ス

對空部隊トシテ、福島合隊ハ忠魂碑ノ高地ニ、田中合隊ハ伊

江城山西方ニ、米道路三叉路附近ニ各々陣地ヲ占領セシム

通信班ヲシテ各陣地ニ部隊本部トノ間ニ連絡セシム(別紙附録  
其二参照)

三、一、二、〇〇、糧秣ニ作命、第五七號 全文省略

四、一、五、三、〇、入會報

一、日課時限ハ當分間渡久地ニ准テス、但シ會報ハ二五三〇之ヲ

實施ス、依而同時刻(各々中隊配屬諸隊ニ各々)ニ命令

受領者ヲ差出スベシ

二、第一、第二、冬大隊本部及各中隊獨立中隊配屬諸隊ハ

當分ノ間傳令一ヲ毎日〇八〇〇部隊本部ニ差出スベシ

服裝ハ徒手、帶劍、卷脚絆、銃管、被日、携行トス

五、一九三〇糧秣ニ作命、中旨左記ノ通り

一、十月十日以來一部ヲ以テ南西諸島主力ヲ以テ台灣ニ來襲セ

ル有力ナル敵機動部隊ハ皇軍ノ猛攻ニ依リ潰滅的打撃ヲ

受ケ、東方ニ遁去中ニシテ、我軍ハ之ニ對シテ戰果擴大中ナリ

軍人令十五日一九三〇丙號戰備ヲ解除ス

糧秣ニ作命  
第五八號

十月十六日

一、地區隊ハ一部ヲ以テ飛行場大隊ノ飛行場整備作業ニ協力ス  
 ルト共ニ主力ハ依然陣地構築ヲ促進セントス

二、各隊ハ一部ヲ以テ對空監視ニ任ズルノ對空射撃部隊ハ  
 之ヲ撤シ隨時對空射撃ヲ移行シ得ル態勢ヲ以テ陣地構  
 築ヲ促進ヲ計ルベシ

四、五、省略

六、爾余ノ諸隊ハ前在勢ヲ續行シ戰備ノ完整ヲ促進スベシ

七、省略

六、九、三、丙、裝、戰、備、解、除

七、中隊主力ハ火砲器ヲ擱置被服ヲ分發シ退避ノ準備ヲ爲シ  
 伊江島國民學校ニ宿營ス

八、中隊ハ本日ヨリ小野軍曹以下三名ヲ以テ中隊炊事ヲ實施セズ

一、七、七、三、中隊ハ一部ヲ以テ伊江島分屯隊隊部於木小隊構築陣  
 地作業ニ協力スル一部ヲ以テ新陣地構築ニ當ラシム

二、一、〇、三、〇、渡、渡、三、五、中、隊、中、隊、左、部、ヲ、遣、り

一、今、敵、長、ヲ、毛、待、從、武、官、坪、島、天、確、中、隊、ヲ、第、三、軍、狀、況、官、視  
 ノ、爲、十、月、丁、六、七、日、御、差、遣、ヲ、ラ、セ、ラ、ル

軍、八、方、三、伴、ヒ、新、書、或、ヲ、強、化、ス、ル、爲、兩、裝、戰、備、ヲ、下、令、ス

三、聯、隊、ハ、丙、裝、戰、備、ニ、移、行、シ、對、空、對、潛、射、撃、式、ヲ、至、嚴、重、ニ、シ、ト、ス

三、省略

四、爾、余、ノ、諸、隊、ハ、現、任、務、ヲ、續、行、ス、ベ、シ

五、省略

三、二、四、〇、〇、台、灣、特、許、台、中、高、雄、台、南、地、區、空、軍、教、養、報、告、令、々

(一、三、三、〇)ノ、報、ヲ、受、ク、直、ニ、在、伊、江、島、國、民、學、校、中、隊、兵、力、ヲ、退、避

セ、シ、ム

四、一、五、〇、〇、特、許、二、五、作、命、聖、旨、ヲ、記、シ、通、リ

一、地、區、隊、ハ、在、渡、久、地、區、有、關、現、物、資、ヲ、追、送、並、ニ、傳、書、便、要、員、

晴

伊江島

一、今、敵、長、ヲ、毛、待、從、武、官、坪、島、天、確、中、隊、ヲ、第、三、軍、狀、況、官、視  
 ノ、爲、十、月、丁、六、七、日、御、差、遣、ヲ、ラ、セ、ラ、ル

軍、八、方、三、伴、ヒ、新、書、或、ヲ、強、化、ス、ル、爲、兩、裝、戰、備、ヲ、下、令、ス

三、聯、隊、ハ、丙、裝、戰、備、ニ、移、行、シ、對、空、對、潛、射、撃、式、ヲ、至、嚴、重、ニ、シ、ト、ス

三、省略

四、爾、余、ノ、諸、隊、ハ、現、任、務、ヲ、續、行、ス、ベ、シ

五、省略

三、二、四、〇、〇、台、灣、特、許、台、中、高、雄、台、南、地、區、空、軍、教、養、報、告、令、々

(一、三、三、〇)ノ、報、ヲ、受、ク、直、ニ、在、伊、江、島、國、民、學、校、中、隊、兵、力、ヲ、退、避

セ、シ、ム

四、一、五、〇、〇、特、許、二、五、作、命、聖、旨、ヲ、記、シ、通、リ

一、地、區、隊、ハ、在、渡、久、地、區、有、關、現、物、資、ヲ、追、送、並、ニ、傳、書、便、要、員、

トシテ一部ノ人員ヲ渡入地本部國民學校ニ出陣遣ヒメントス  
ニ花記人演八直ケニ渡入地ニ到リ物資ノ蒐集ヲ進送並運  
送ニ任スヤシ

左ノ記

高不主計中尉

金子 軍曹

乙部 兵長

傳令 一

物資監視員

送送

佐々木兵長以下四名一連終

三細部三明ニテハ初隊副官ヲシテ指示セシム

四 省略

五 一五〇〇 空襲不警報解除

六 一五〇三〇 警報五日命第八三號 全文省略

十月十七日(火)

時

伊江島

一〇三・二七在伊江島防衛隊本部ヨリ電話ニテ大部ノ台灣軍

參謀長情報ヲ受ケ 全島ニ亘リ 警戒 警戒 警戒 整理 校

内ノ壕ニ分散ヲ命ゼシノ 警戒 警戒 警戒 警戒 警戒

大 記

台灣軍參謀長情報

一現在逃走中ニシテ外新ニ機密部隊三軍ヲ動員東方

一〇〇一三〇 彈藥貯蔵ニ在リ

ニ特ニ明早朝警戒戒嚴ナリクサス

注意 特ニ本朝ノ空襲警戒令カレバモ知レテモ依リ

注意 注意

二〇七三三〇前日同様作業者進行セシム

三一〇〇〇 警報二五作命第六〇號出第ニ項ニ基キ全島軍警渡入地

向テ伊江島出發ス

四一〇〇〇 團日軍中大尉上等兵事務通終ノ爲大空襲ニ向テ出發

セシム

五、一三四〇空襲被害報告発表令

六、一五三〇〇人會 報

一、十月八日、會報ハ之ヲ実施ヲ取止ム

二、休養外会ニ関シテハ追テ指示スルモ當分間実施セズ

十月六日(水)

一、〇七二五警戒警報解除

二、一六〇〇岡田軍曹 大尉正筆兵用務終了不登原ヨリ歸隊ス

伊江島

猶、港方中村武雄上等兵共ニ同行ス

三、一五三〇智浪一五日命第八四號 全文省略

四、自一六〇〇ノ間中隊全員以テ強襲並ニ梱包類揚陸撤

送ヲ行ハシム

五、自一〇〇〇ノ間下二宮以テ兼合レシテ兵運業者ノ診察會議

ヲ行フ

六、明十九日運中口語(負傷)四部別隊本營復生爲山由曹長

大野ニ報告スルニ至テ是レヲ之ノ任令行ハシテ撤収執務ス

十月十九日(水)

一、一〇、三〇海軍日誌(六月分)四部別隊本營ニ提出セシム

二、一、三〇中隊主力伊江島ヨリ西ニ渡リ舊遺跡舊態ヲ復

伊江島

歸ノ内令ニ據リ作業ヲ中止セシメ歸還準備ヲ行ハ

シム

三、一四〇〇廿六不兵取集并上等兵連者中村武雄上等兵共ニ渡久地

ニ先行セシム

四、一五、〇〇猶、五五作命要旨天詔ノ通り

一、聯隊ハ務圍ノ命令ニ基キ伊江島地區隊ノ任務ヲ旧伊江島

地區隊(砲兵中隊元、七七)ニ移譲シ旧態勢ニ復歸セ

シトス

二、三省略

伊江島五五作命  
第六一號

五省略

四、本部及第二大隊獨立各木隊八共若揮葉并糧秣資材ト  
共ニ三十日以降伊江島ヲ發シ人員及材料塔載係ノ指示  
ニテ旧露管地附近ニ復歸シ以前任務ヲ續行スベシ  
彈藥兵食管領ハ樺橋埠頭等ニ集積スルニテトテ速次  
陣地又露管地附近ニ令散集積スベシ

五省略

六、牧原少尉ハ若狹樺橋埠頭上ノ曉部隊ト協定シ速次到着  
スル荷物ヲ轉送ニ任ルベシ

七省略

八、各隊ハ旧露管地復歸ノ爲所率ノ人員ヲ本十九日一四〇〇  
伊江島樺橋埠頭ニ出シ聯隊副官ノ指揮ニ依リ旧露管地ニ  
先行カシムベシ

九省略

五、樺橋埠頭ニ五分第六項ニ至テ牧原少尉ヲテ中隊前哨

樺橋埠頭ニテ聯隊ニ報告スル

十月五日(金)

晴

伊江島

一、一三三〇樺橋埠頭ヨリ下ニ名軍用波止塔ニ至ラシテ彈藥ヲ塔  
ニ載テ管積セシム

二、一三三〇樺橋埠頭ニ下ル八名ヲテ中隊兵食彈藥ヲ塔ニ載テ  
臨時勤務兵トシテ兵食委員ノ指示ヲ受ケルベシ

三、一四〇〇高橋上等兵丸山一等兵ヲ中隊彈藥監督觀望ニ連  
絡シ爲渡入地ニ先行セシム

四、一五三〇樺橋埠頭ニ五日命第八五號 全文省略

十月五日(土)

晴

大草原

一、一〇六三〇中隊ハ伊江島國民學校ヨリ出發シ一七〇〇伊江島  
民用埠頭到着

二、一五三〇午前中ヨリ聯隊前哨上 樺橋埠頭伊江島ヨリ出  
發ス一六三〇渡入地埠頭到着 直ニ火砲彈藥糧秣林柵等

類揚陸作業ヲ行ハス

三、獨混二五日命第八大號 全文省略

四、會報

一、發給勅諭ハ後之通リ取扱ハシテ承知スベシ

五、一八、〇〇大倉正房ニ向テ火砲、彈藥、糧秣ヲ搬送スル

六、二二、〇〇大倉正房外到者

七、二二、〇〇獨混二五作命第五號、通リ

一、情報ニ依リテ存米米倉庫ハ比島方面敵機動部隊ノ作戦

ニ呼應シ即チ三日台灣及本工ノ爆撃ヲ企圖シ各基

地ニ米ヲ貯蓄口ナルモノ知レ

二、地區隊ハ荷三開始余燭夜後ニ於テ其ヲ警戒ス至嚴クスル

三、四五、〇〇省略

六、獨混ノ諸隊ハ依然前任務ヲ續行スル

七、省略

十月十五日

時

大倉正房

獨混二五作命  
第八大號

一、自一八、〇〇ノ間中隊主力ヲ以テ彈藥ヲ搬送セシム

二、一九、三〇事務連絡爲ニ在浦ノ地區隊本部及中隊ニ對テ

一七、〇〇部隊ヲ

三、二一、〇〇獨混二五作命第五號、通リ

一、旅團ハ準備討伐中ノ南北兩地區隊ノ戰術地境ヲ一部

変更ス

二、地區隊ハ浦名東端橋梁以四ノ浦名川河谷ニ於テハ優越力

ナル敵機動部隊ノ斷企圖對テ是道際ナクシムルト共ニ

南北兩地區ノ支遣ヲ確保セトス

南地區隊ハ浦名東端橋梁以東ノ地區ヲ担任ス

三、省略

四、省略

四、二五、〇〇獨混二五日命第八大號 全文省略

五、二五、〇〇會報

十月三日(日) 晴

大倉原

一、 白〇七三〇 間中隊全員 彈藥糧秣 梱包 搬送カ  
至一八〇〇 間中隊全員 彈藥糧秣 梱包 搬送カ  
シム

二、 一五〇〇 岡田軍曹ヲヒテ 事務連絡上 渡ヌ地ヲ 招致ス  
一七〇〇 歸隊カシム

三、 本日 命令 會報カシム

四、 本週 勤務トシテ 左記 者ヲ 報告カシム  
週番士官 陸軍少尉 牧原 廣三

十月三日(日) 晴

大倉原

一、 〇七〇〇 本日ヨリ 再上 砲地 掃蕩 作業 開始シ 一七〇〇 作業  
終了 作業 第一日目

二、 〇八三〇 患者 中村 武雄 上等 兵 富分 間 在 渡ヌ 地 中 隊 三 在  
リテ 治療 ヲ 受ケルル 爲 渡ヌ 地 三 赴カシム

三、 本日ヨリ 富分 間 中 隊 糧 秣 輸送 爲 藤井 上等 兵 ヲ 行  
キ 本 下 下 下 股 務 カシム

四、 小野 軍曹 以下 五 名 ヲ ヒテ 新 三 中 隊 炊 事 場 ヲ 設 置 セシム

五、 一五三〇 獨 浪 一 五 日 命 令 實 行 記 録 通リ

一、 二、 者 略

三、 命 陸 軍 軍 曹 金 安 久 吉

免 陸 軍 少 尉 野 村 俊 人

頭 書 通リ 炊 事 係 下 士 官 ヲ 免 命 ス (十月 十四 日 批)

六、 一五三〇 會 報

支那五軍命  
第一个人様

一 聯隊入備立混成第廿四旅團、編合内ニ入ラレル練屬轉  
 移時期ハ昭和十九年十月二十二日トス  
 二 省 略  
 三 非常用蠟燭燐寸石油ヲ交付ス本日會報後經理室  
 去開兵長ヨリ受領スベシ  
 蠟燭燐寸等本日交付分ヲ以テ經理室在番品ハ他無  
 ナルニ付各隊ハ嚴シク濫用ヲ戒メ節用ニ努ム非常ノ場合  
 ノミニ使用スベシ  
 七 七三三ロ大空原池駐シテ今次台灣沖航空戰、種々タル戰果不  
 ヲ祝シ備ケテ 靖國ノ諸先輩ノ功ヲ讃ヒ自主軍ノ武運長ク  
 ヲ祈念ス爲地有方者ヲ招待シ中隊會食ヲ実施ス  
 一 一〇八、一〇〇戰隊イロハ八官守相當者名簿四部、部隊本部ニ提出ス  
 二 一五三ロ得張二五〇命第八九號 全文省略  
 三 上月日同様作業續行ナシム 作業第二日目

大空原

十月五日(水)

一 一五三ロ得張二五〇命第九〇號 全文省略  
 二 一五三ロ 會 報  
 一 入浴室ヲ大ニ造リ定ムルニ付警備守スベシ  
 將 杖 一六、一〇〇……………一七、一〇〇  
 下士官 一七、一〇〇……………一八、一三〇  
 兵 一八、一三〇……………二〇、一〇〇  
 三 陣中日誌(七、八月念)作成ノ爲中隊事務室ニ宿舍ニ於テ山田  
 中長ヲ對シ等兵、下津一等六ヲシテ二四〇、送張務カセシム  
 前日同様作業續行ナシム 作業第三日目

十月五日(水)  
 一 一〇九、一三〇陣中日誌(七、八月念)分四部(卷)山日衛生上等兵ヲシテ  
 部隊本部ニ送達セシム 徳高澤一等兵骨股天始症ニ因

時

十月五日(水)

一 一〇九、一三〇陣中日誌(七、八月念)分四部(卷)山日衛生上等兵ヲシテ  
 部隊本部ニ送達セシム 徳高澤一等兵骨股天始症ニ因



大室原

リ受診ノ為山口衛生上等兵附添ヒ渡久地ニ赴ケル  
 二午前中内室聯隊砲新陣地偵察駐ビ作業指導ス  
 三一二、三〇在渡久地中隊ニ赴キ同夜宿泊ス  
 四前日同様作業續行セシム 作業第四日目

十月十九日  
雨後曇

大室原

一午前中在渡久地部隊本部ニ於テ駐中地會報ニ出席ス  
 二一二、三〇事務連絡ノ為名義所 旅團司令部ニ出張シニ  
 ヲ帰隊ス  
 三一二、三〇復混ニ五日命第九一號 全文省略  
 四二〇、三〇再精勤音下階與ノ件ニ就キ在大室原中隊下士官  
 以上ノ集合セル中隊本部宿舎ニ於テ陸衛會議ヲ行フ  
 五本日作業ヲ休止セシメ 環境ノ整理等ニ休養セシム  
 十月十九日(日)  
 一〇七、〇〇軍馬受領ニ付羽根地村ニ出張シ為渡久地ニ赴ク

晴

大室原

二〇八、〇〇事務連絡ノ為山田中隊長及ビ大野上等兵六人在  
 渡久地部隊本部及ビ中隊ニ赴ケル 一五、三〇帰隊ス  
 三〇八、〇〇昨二十八日命第九十一號ニ基キ中隊ヨリ藤井  
 上等兵以下三名ヲ差出シ軍馬受領ノ勤務ニ服セシム  
 四〇八、三〇軍馬受領ノ為兵二〇名ヲ指揮シ羽根地村字  
 田手等ノ原部隊ニ赴クノ渡久地出発 同隊ヨリ臨  
 時軍馬ニ四頭受領ニ〇、〇〇渡久地帰着ス同夜在渡  
 久地中隊ニ宿泊ス  
 五〇九、〇〇復混ニ五作命左記ノ通り  
 一旅團八球作命丁第二五三號ニ基キ人的戦力消耗ノ主因ヨリ  
 急性傳染病ノ徹底的防遏ヲ企圖ス  
 二聯隊八傳染病ノ排除及傳染経路ノ遮断ニ遺憾ナキ  
 施設ヲ實施スルト共ニ特ニ丙隊戦備以上ノ状況ニ於テ  
 心防護給水ノ根本対策ヲ樹立セトス

復混ニ基キ  
第六四第

第七師團防疫給水部ハ被團ノ防疫給水ニ協力ス

三各隊ハ別隊ノ指令ニ基キ傳染病ノ其除及傳染経路ノ

遮断ニ遺憾ナク施設ヲ講ルルト共ニ防疫的給水ノ根本

対策ヲ樹立スベシ

担任陣地内ニ於ケル作井希少ニ位置ヲ十一月二日ヲテニ

報告スベシ

作業実施ニ關シテ野戰作井第二口中隊協力スル等

別紙

一傳染病ノ徹底的防遏ノ方針

平戰兩時ヲ通シ消化器系傳染病ノ發生ヲ絶無トシ

ムルト共ニ之ノ傳播ヲ防止ス

ニ實地要領

一各隊ハ連カニ各担任区域内ニ作井又ハ貯水ノ施設ヲ自

備シ高度戰備下ニ於テモ雜用飲用ニ沸水雨水共ニ濾水器

ニ依リ濾過せんモノヲ使用シ得ル設備ヲ具ス

又各隊付軍醫官ハ各水源ニ汚穢標識ヲ設置シ

テ記

「飲用適」 「濾過飲用適」 「消毒飲用適」 「雜用適」

「使用不適」

一一般民衆ト協同使用ヲ努ムテ禁止ス

二民衆ニ立入り及濾過セザル生水生物ノ飲食ヲ禁ム

三蠅蚊蚤鼠等ノ撲滅

四厠下水ノ清淨

五軍醫官ハ隨時關係住民ノ衛生状態給水地ノ改善

兵舎等ヲ巡視シ病原ノ輸入ヲ防止スルト共ニ安全ニ

予防接種ヲ適時實施ス

六檢水ニ關シテ第七師團防疫給水部ト密ニ連絡ス

七各隊個人並ニ公衆衛生ノ教育ヲ徹底セシメ患者ノ早期

受診ヲ勵行ス

10. 消毒材料ハ計画ヲ附シ請求スルモノトス

六. 本日作業續行セム 作業 第五日目

七. 會報 省略

十月三十日(月)

一. 〇八.〇〇通信手 依田上等兵以下三名ヲシテ大層ニ起力シテ

兩後量

厨所通信班ヨリ大堂原中隊事務室宿舎迄電話ル線

大堂原

作業ヲナサシメ 一八三〇架線作業終了

二. 二四〇〇中隊井上等兵 丸山一等兵由隊際當馬三頭ヲ伴ヒ大

堂ニ歸着ス

獨混五五令

三. 一五三〇獨混五五令 聖旨左部ノ通り

第九二號

一. 臨時軍馬三十四頭 林團ヨリ配當セラル 依テ十月三十日

各隊ニ配當ス 各隊ノ所管ノ夫ノ差出シ配當馬ニ交付ス受入シ

配當區分左記ノ如シ

左ノ部

聯隊中隊 功雲 豊岡 勇政

二. 省略

四. 二五三〇會報

一. 十月三十一日十一月一日ノ兩日農作物檢査ノ爲各隊ハ築城協力

者ヲ休務セシムベシ

陸軍省令

五. 本日本中隊ニ左部聯隊軍馬三頭配當セラル

乘馬 功雲

輕馬 豊岡

輕馬 勇政

六. 前日同様作業續行セム 作業第六日目

七. 本週ノ週終勤務トシテ大體服務セシム

週終工官 陸軍曹長 山田 次郎

十月三日(火)

日雲

大室原

一、二日。陸軍上等兵久保田中太郎。内室聯隊砲隊陣地  
壕構築作業中。突如落響ニ依リ頭部及腰部ニ裂傷  
ヲ受テ直ニ山口衛生兵所送リ渡久地醫務所室ニ赴カシテ醫官ノ診断  
ヲ受ケタル

御遺命  
第九三號

二、五三日。覆命二五日命左記ノ通り

一、兵務勳章別紙ノ通り附與ス(十月三十日付)

兵務勳章  
附與

別紙按草一

聯隊砲中隊

陸軍上等兵

金久保 金二

同

同

杉山 文夫

同

同

岩井 清

同

同

内田 壽作

同

同

久保田 中太郎

同

同

落合 次雄

聯隊砲中隊

陸軍上等兵

和田 義勝

同

同

大野 好夫

同

陸軍一等兵

鈴木 和太郎

同

同

田島 晴一

同

同

長田 正市

同

同

池村 正平

同

同

保坂 光治

同

同

金子 良作

同

同

豊田 進

同

同

永井 政雄

同

同

下津 榮藏

同

同

山田 武雄

兵連級

二、兵連級ニ關シ別紙ノ通り心得ハシ(十月三十一日付)  
別紙按草一

聯隊砲中隊 陸軍衛生上等兵 山口 政治	陸軍衛生兵長 命令不	聯隊砲中隊 陸軍一等兵 鈴木 和太郎	同	保坂 光治	同	瀧 春夫	同	川形 吉雄	同	今井 千衛	陸軍上等兵 命令不	三	陸軍一等兵 八木 岩雄	右本三十一日事務連絡為即日帰隊予定に及らざる所 二出張命令不	三二五三三會報	一各隊ハ自轉車修理ニ終贖ル兵ヲ調査シ十二月二日會報 時兵器本員ニ提出スベシ
---------------------	------------	--------------------	---	-------	---	------	---	-------	---	-------	-----------	---	-------------	-----------------------------------	---------	--

(四〇四・四四)

陸軍上等兵 鈴木 清	同	岩井 清	同	内田 壽作	同	久保田 市太郎	同	落合 次雄	同	和田 美勝	同	大野 好夫	陸軍一等兵 鈴木 和太郎	同	田島 晴一	同	長田 正市
陸軍上等兵 金久保 金二	同	杉山 文夫	同	陸軍上等兵 命令不	四	中隊命令	二石井少尉ニ報告スベシ	三各階立中隊ハ歸隊工務兵ニ及ら明工月一日正午迄	二石井少尉ニ報告スベシ	二	二	二	二	二	二	二	二

一〇四四

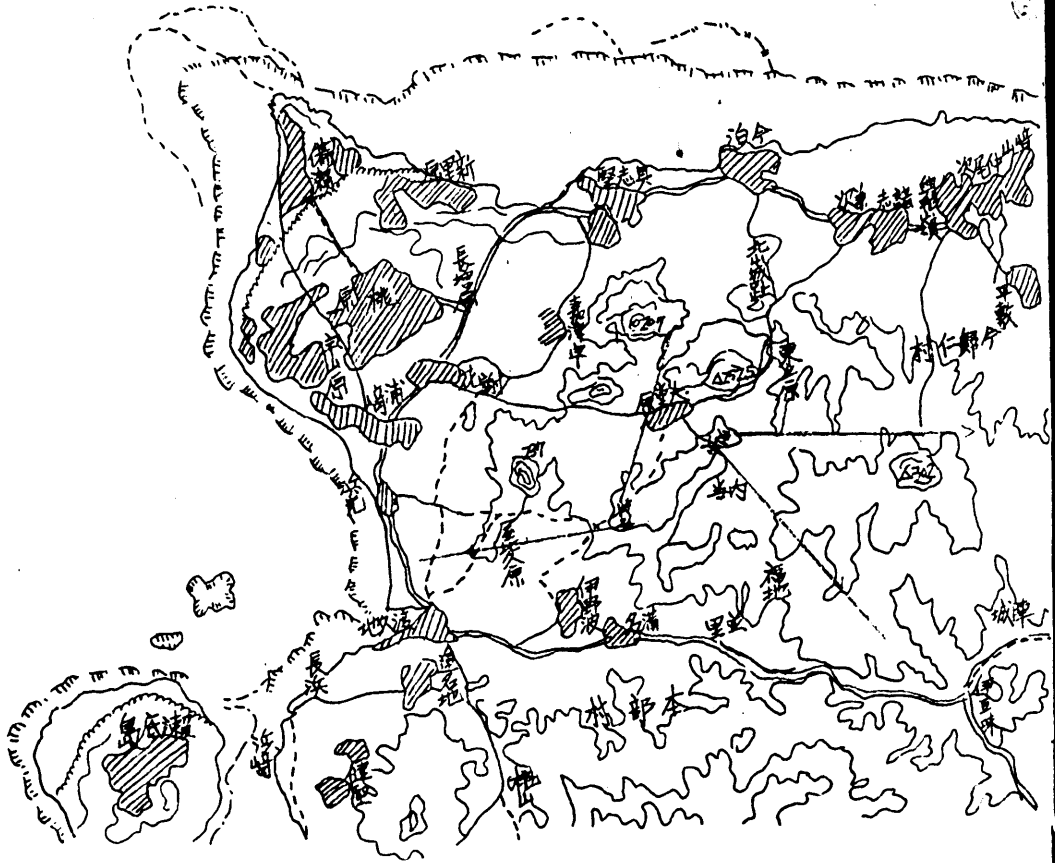
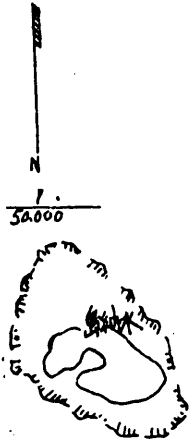
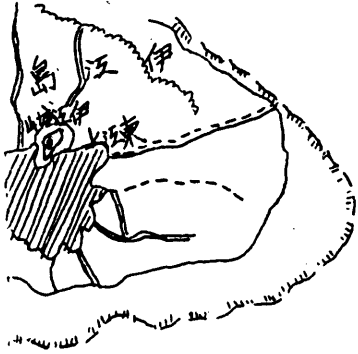
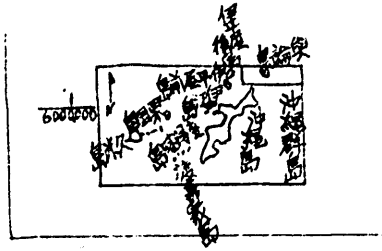
新別野圖



陸軍一筆兵	油村	正平
同	保坂	光治
同	金子	良作
同	豊田	進
同	永井	政雄
同	下津	榮藏
同	山田	武雄
石兵精勤章ヲ附録ス(十月三十日付)		
五、一九〇〇大室池畔ニテ中隊全員ヲ集合セシメ兵進級		
及兵精勤章附録ニ關スル命令ヲ下令ス		
六、本日作業續行セシメ 作業第七日目		
以上		

陣地配備要圖

別紙  
附圖其一



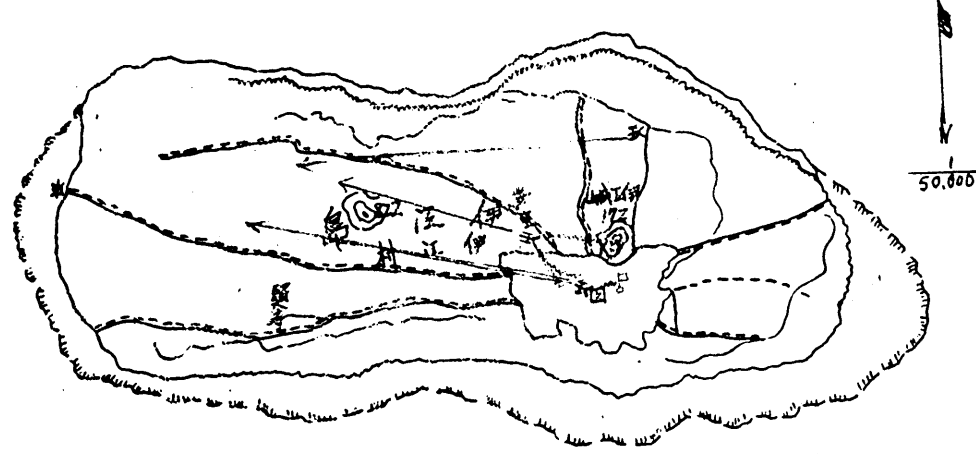
以上

(附圖一)

未補

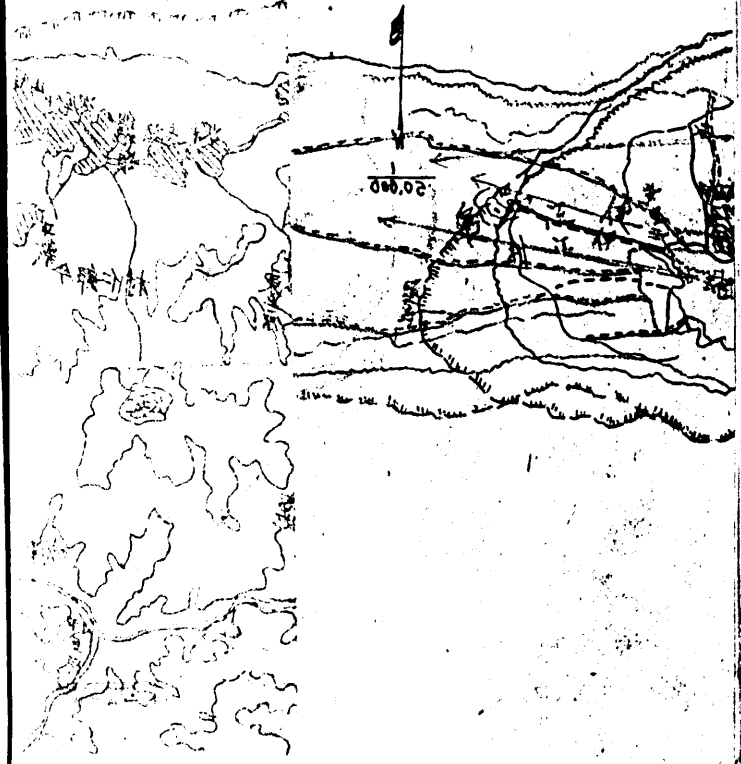
伊江島障地配備要圖

別紙  
附圖其二



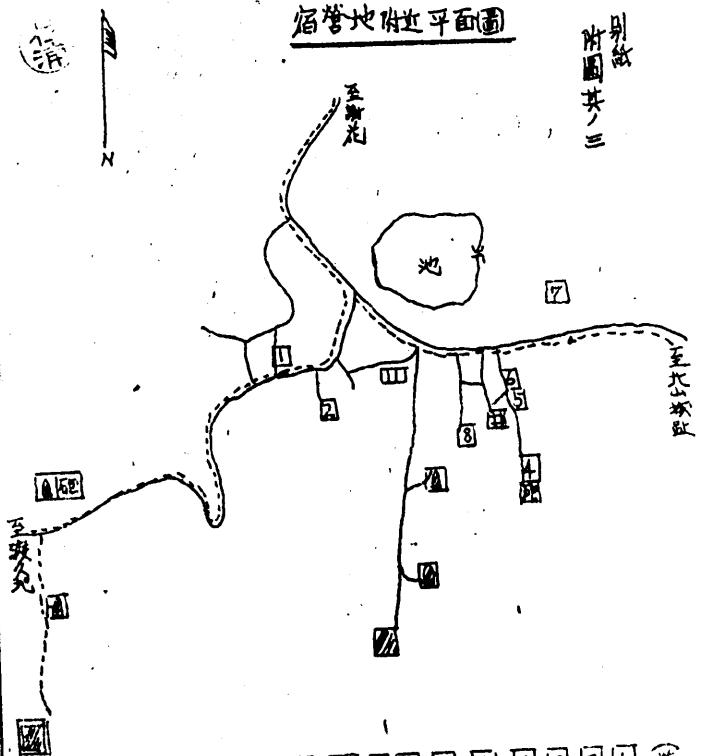


附圖其三



宿營地附近平面圖

別紙  
附圖其三



- 備考
- 1 中隊本部
  - 2 中隊倉庫
  - 3 福島倉庫
  - 4 田中倉庫
  - 5 小野倉庫
  - 6 小倉倉庫
  - 7 萩原倉庫
  - 8 井戸
  - 9 本陣地
  - 10 飛彈庫
  - 11 砲庫
  - 12 彈藥庫